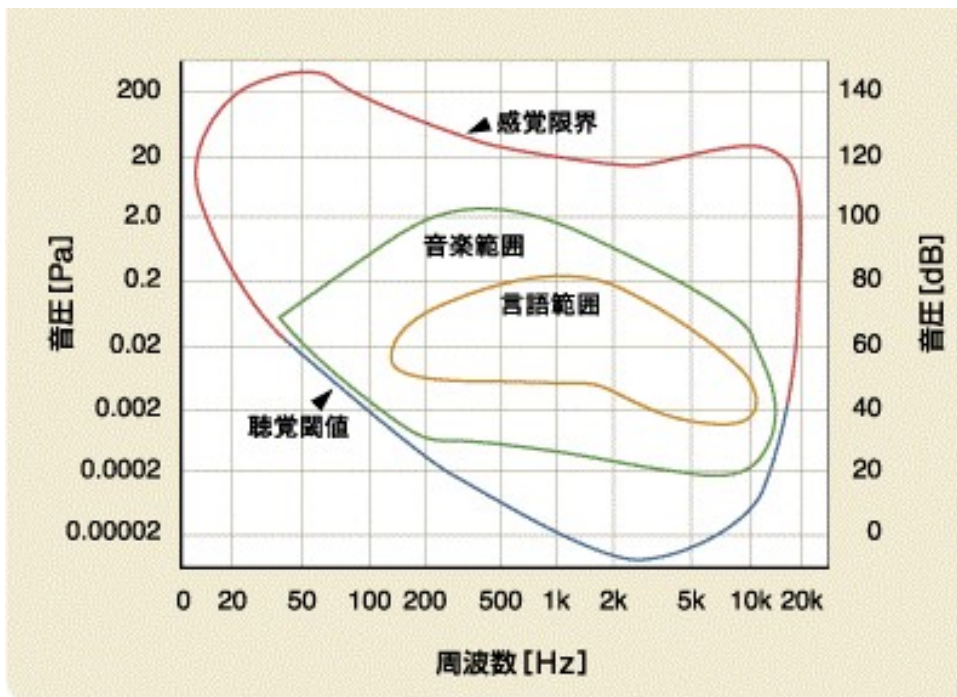


低音と信号としての音、芸術としての音

音楽も、言語も 共に音を使って人間に刺激を与えています。言語やブザー音などの具体的な意味を知らせる音と、音楽などの情緒を揺らす音とは、すこし役目が違います。また、使っている音域も違うのです。

例えば、サイレンが鳴った瞬間、あなたは何らかの危険や異常が発生したことを察知します。言語も情報を正確に伝える必要があります。となると人間が聞きやすい周波数の音を使う必要があります。それに対し音楽は人により感じ方が変わります。たとえば「走れ」と言語では言えば、ほぼすべての人間が走らないまでも 走る心構えはするのではないのでしょうか。それに対し音楽でそれを伝えるのは難しいです。そのために言語では人間が聞きやすい周波数を使っています。

下に音楽活動で使用する周波数と言語で使う周波数を示します。



出展: エンジニアのための人間工学「日本出版サービス」

音楽で使う音域は言語で使う音域より広いことがわかります。また、音圧(音の大きさ)も言語より広いことがわかります。音楽が人間の限界近くまでの音域と音圧を使って人間の情緒を揺らすのに対し、言語は情報を人間に伝えることが主であることが差となって表れているのだと思われます。そう考えると、音楽は演奏者の能力で心の感じ方が大きく変わるのに対し、言語では声を出す人が変わっても音楽ほど伝わるが変わりません。音楽が絵画としたら、言語は文字なのかもしれませんね。

それともう一つの違いがあります。言語では短時間で伝えたいことを伝えることができますが、音楽では伝えたいことが伝わるまでに時間がかかるということです。よって、音が聞こえるか聞こえないかという短時間のテストでオーディオを判断すると間違いが起こる可能性があります。